

新品種・新技術導入等に向けた取組（要綱第4の2の（2）関係）

1. 奈良県が育成した新品種（品種登録後10年以内の品種）、若しくは奈良県が地域農業の実情を踏まえ重要と位置付けている品種

作目	品目	品種(系統)名
花き	小ギク	春日の紅
		春日の鈴音
		春日Y2(流通名:春日の星)
		春日W1(流通名:春日の泉)
		春日Y1(流通名:春日の光)
	二輪ギク	千都の舞
		千都の風
		千都の恋
千都の粋		
野菜	いちご	古都華
		珠姫(出願中)
		奈良10号(仮称)
	とうがらし	HC3-6-10-11

奈良県が地域農業の実情を踏まえ重要と位置付けている新技術

作目	品目	技術名	内容
花き	小ギク	不織布被覆による5～6月咲き小ギク凍害(芯止まり症状)軽減技術	不織布の被覆により凍害による芯止まり症状を軽減する。
		LED球利用による省電力電照技術	盆の需要期出荷を図るための電照技術をLEDで代替することにより、低コスト化を図る。
	小ギク 対象品種: 紅の谷、紅の川、お吉、たまむし、ひびき、金うさぎ、すずろ、白芳、朝露、老松	電照と無加温ハウスを利用した11月の安定出荷技術	電照と無加温ハウスを利用することで開花が不安定な11月に小ギクを計画的に出荷できる。
	バラ	CO ₂ 局所施用技術	同化専用枝周辺にチューブ等を用いてCO ₂ を局処施用することで増収および品質向上を図る。
	ダリア	茎長培養した挿し芽苗の利用による冬春切り栽培技術	茎長培養した挿し芽苗を秋に定植し冬～春に採花する新しい作型。
野菜	いちご	天敵製剤を用いたナミハダニ防除技術	薬剤抵抗性が発達したナミハダニを天敵製剤(チリカブリダニ)等を用いて防除を行うことで、慣行防除に比べて増収と労働時間の削減を図る。また、天敵に影響の少ない殺虫剤を使用することで、天敵を保護しながら天敵の増殖・利用を図っている。
		新たな花粉媒介昆虫(ヒロズキンバエ)の利用技術	ミツバチに代えてヒロズキンバエを受粉促進に利用することで、ミツバチの活動不良や過剰訪花が原因で生じる奇形果の発生を低減する。
	なす	土着天敵の利用によるミナミキイロアザミウマ防除技術	ヒメハナカメムシ類保護を主眼とした露地ナスの天敵保護体系を実践することで、難防除害虫であるミナミキイロアザミウマとカメムシ類の被害を低減する。天敵の増殖には、ナスほ場の外縁にフレンチマリーゴールドを植栽することや、ミナミキイロアザミウマ以外の害虫が発生した場合は、天敵に影響の少ない殺虫剤を使用する等の技術を用いることで、天敵の増殖・利用を図っている。

注) 新品種・新技術とも作型等の関係で既に始めているものもあるので、4月30日以降の取組であれば、支援対象として認めるものとする。